

## 【夏季の大会運営での安全対策】

夏季の大会開催については、様々な感染症の感染リスクと熱中症リスクを最小化する観点から、選手や関係者の安全を最優先し、実施の可否について地域ごとに慎重に判断して実施または中止・延期の判断をお願いいたします。夏季の大会実施にあたっては、熱中症対策を十分に行うとともに、緊急事態のための体制・設備・備品を備えることが重要です。

- ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。
  - ※ 全選手/スタッフが同時に入り、かつ氷や飲料等を置けるスペースを確保する。
  - ※ スタジアム等に備え付けの屋根が透明のベンチは、日射を遮れず風通しも悪いため使用不可。
  - ※ 人工芝ピッチに屋根がない場合は、必ず日射を遮るテント等を設置する。
- レフリーや運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
- 熱中症対応が可能な救急病院を準備する。特に夜間は宿直医による対応の可否を確認する。
- ウォーターブレイク(給水)の準備をする。
- 会場に医師、看護師、BLS（Basic Life Support：一次救命処置）資格保持者等を常駐させる。
- 前後半1回ずつ、それぞれの半分の時間が経過した頃に3分間程度のウォーターブレイクを設け、熱ストレスのチェック、身体の冷却、水分補給を行う。7人制についてはハーフタイムの延長を考慮する。
- 暑熱環境に応じて（WBGT 値 “Wet Bulb Globe Temperature = 湿球黒球温度” などをもとに）大会主催者は以下を許可すること
  - ※ 日影にあるベンチに入り、休む。
  - ※ 身体冷却用の氷や水（アイスタオル等）を用いて、必要に応じて体を冷やす
  - ※ 水だけでなくスポーツドリンク等を飲む。
- ロッカールームでエアコンまたは扇風機（または団扇）を使用する。
- 大会に備え EAP（Emergency Action Plan：緊急時対応計画）を作成しておく。

EAP とは、事故や災害発生時などの予定外の緊急時に際して、各組織、チームがその場で対応するために予め想定した行動計画のことです。チームラグビー関係者全員が情報を共有し、緊急時対応計画を周知徹底することにより、よりスムーズな対応を図ることが重要です。JRFU では、EAP 作成のためのひな形/テンプレートを用意しています。

日本ラグビーフットボール協会ホームページ 「安全対策」(EAP テンプレートは最下段)

<https://www.jrfuplayerwelfare.com/>